Also available daily on the internet!!
http://qt.swim.org/user_dir/japanlife/user_print_web.php

Devotional Guide

ディーヴォ ガイド

Nagoya Glorious Chapel

2026.11.16-22

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

Family Worship

セル ガイド

①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
③ディボーションの分かち合いをします。
④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。 いつもの家族でいいのです。

①この１週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
②この１週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）１つだけ。
③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

ＬＴＧ ガイド

①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（1～３つ）

②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。

③礼拝メッセージの分かち合いをします。
　礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）

④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

L T G Guide

16日　月曜

アモス

7:10 ベテルの祭司アマツヤは、イスラエルの王ヤロブアムに人を遣わして言った。「アモスは、イスラエルの家のただ中で、あなたに謀反を企てています。この国は彼のどのことばも受け入れることができません。
7:11 アモスはこう言っています。『ヤロブアムは剣で死に、イスラエルはその土地から必ず捕らえられて行く。』」
7:12 アマツヤはアモスに言った。「先見者よ。さあ、ユダの地へ逃げるがよい。そこでパンを食べ、その地で預言するがよい。
7:13 ベテルでは二度と預言するな。ここは王の聖所、王国の宮だからだ。」
7:14 アモスはアマツヤに答えた。「私は預言者ではなかったし、預言者の仲間でもなかった。私は牧者であり、いちじく桑の木を栽培していた。
7:15 しかし、【主】が、群れの世話をしていたところから私を取り、【主】が私にこう言われた。『行って、わたしの民イスラエルに預言せよ』と。
7:16 今、【主】のことばを聞け。あなたは『イスラエルに向かって預言するな。イサクの家に向かって戯言を言うな』と言っている。
7:17 それゆえ、【主】はこう言われる。『あなたの妻は町で遊女となり、あなたの息子、娘たちは剣に倒れ、あなたの土地は測り縄で分割される。あなたは汚れた土地で死に、イスラエルはその土地から必ず捕らえられて行く。』」

アマツヤは王の気に入るように預言するような人物でした。アモスは羊を飼う者であって、預言者としての正式な教育を受けていなかったのですが、主は彼を召されたのです。主に用いられるには、また主のお墨付きをいただくのは、人間的な経験や学歴ではなく、主の権威によるのです。それがあってこそ、はじめて学びや資格が意味を持つのです。

誰もが、その奉仕や仕事において主からの召しをいただいています。または召しをいただくべきです。それを確信できるように、主の御心を求めましょう。御心を確信したなら、人の権威に惑わされずに主に聞きましょう。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

17日　火曜

アモス

8:1 【神】である主は私に示された。そこには一かごの夏の果物があった。
8:2 主は言われた。「アモス。何を見ているのか。」私が、「一かごの夏の果物です」と言うと、【主】は私に言われた。「わたしの民イスラエルに終わりが来た。わたしはもう二度と彼らを見過ごさない。
8:3 その日には、神殿の歌声は悲鳴に変わる。――【神】である主のことば――多くの屍が、いたるところに投げ捨てられる。口をつぐめ。」
8:4 聞け。貧しい者たちを踏みつけ、地で苦しむ者たちを消し去ろうとする者よ。
8:5 あなたがたは言っている。「新月の祭りはいつ終わるのか。私たちは穀物を売りたいのだが。安息日はいつ終わるのか。麦を売りに出したいのだが。エパを小さくし、シェケルを重くし、欺きの秤で欺こう。
8:6 弱い者を金で買い、貧しい者を履き物一足分で買おう。屑麦を売ろう。」
8:7 【主】はヤコブの誇りにかけて誓われる。「わたしは、彼らのしていることをみな、いつまでも決して忘れない。
8:8 地はこのために震えないだろうか。地に住むすべての者は喪に服さないだろうか。地のすべてのものはナイル川のように持ち上がり、エジプトの大河のように、うねっては沈まないだろうか。
8:9 その日には、――【神】である主のことば――わたしは真昼に太陽を沈ませ、白昼に地を暗くする。
8:10 あなたがたの祭りを喪に変え、あなたがたの歌をすべて哀歌に変える。すべての腰に粗布をまとわせ、頭を剃らせる。その時をひとり子を失ったときの喪のように、その終わりを苦渋の日のようにする。

Bible Reference 聖書の記述

くだものに熟す時がくると同じように、イスラエルにさばきの時が熟したと告げられます。穀物の売買に不正があるような社会は、一夕一石には生まれないでしょう。恐らく社会の慣習として不正が蔓延していたと思われます。人々は常識的に不正をしており、無感覚になって、そのような社会がずっと続くを思っていたことでしょう。

しかし、主は「その日には…真昼に太陽を沈ませ…」とあるようなさばきをもたらすと宣言なさいます。社会の慣例であろうと、主の前には不正は不正です。またそれは主の義を侮るところから始まるのです。

社会のあり方を主の前に検証しましょう。また自分自身がその社会の慣例に流されていないか、探っていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

18日 水曜

アモス

8:11 見よ、その時代が来る。――【神】である主のことば――そのとき、わたしはこの地に飢饉を送る。パンに飢えるのではない。水に渇くのでもない。実に、【主】のことばを聞くことの飢饉である。
8:12 彼らは海から海へと、北から東へとさまよい歩く。【主】のことばを探し求めて行き巡る。しかし、それを見出すことはない。
8:13 その日には、美しい若い女も、若い男も、渇きのために衰え果てる。
8:14 彼らは、サマリアの罪過にかけてこう誓う。『ダンよ、あなたの神は生きている。』『ベエル・シェバの道は生きている。』しかし、彼らは倒れて二度と起き上がれない。」

9:1 私は、祭壇の傍らに主が立っておられるのを見た。すると、主は言われた。「柱頭を打ちたたき、敷居が震えるようにせよ。すべての者の頭を打ち砕け。彼らのうち、生き残った者をわたしは剣で殺す。彼らのうち逃げられる者はなく、彼らのうち逃れられる者もない。
9:2 たとえ、よみに入り込んだとしても、わたしの手が、彼らをそこから引きずり出す。たとえ、天に上ったとしても、わたしが彼らをそこから引きずり降ろす。
9:3 たとえ、カルメルの頂に身を隠したとしても、わたしが彼らをそこから捜し出して捕まえる。たとえ、わたしの目を避けて海の底に身を隠したとしても、わたしが蛇に命じて彼らをそこでかませる。
9:4 たとえ、敵の捕虜となって行ったとしても、わたしが剣に命じてそこで彼らを殺させる。わたしは彼らの上に目を注ぐ。それは、わざわいのためであって、幸いのためではない。」
9:5 万軍の【神】、主が地に触れると、それは溶け去る。そこに住むすべての者は喪に服す。地のすべてのものは、ナイル川のように持ち上がり、エジプトの大河のように沈む。
9:6 天に高殿を建て、地の上に丸天井を据え、海の水を呼んで、地の面に注がれる方、その名は【主】。

Bible Reference 聖書の記述

「その日」とは主の権威が明らかにされる、主の日であり、終末のときです。それはさばきであるとともに、主の義が表わされる希望の日でもあるのです。そのようなときは単なる苦難のときではなく、それは「主のことばを聞くことの飢饉」であると記されます。
この世の苦しみと主への信仰は密接に関連しているのです。ですから9章にあるようは徹底したさばきは、不信仰のゆえであることが分ります。
苦難のときにこそ主の御心を求めましょう。辛いときこそ主に従順でありましょう。本当の解決がそこから始まります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

19日 木曜

アモス

9:7 「イスラエルの子らよ。あなたがたは、わたしにとってクシュ人と同じではないのか。――【主】のことば――わたしは、イスラエルをエジプトの地から、ペリシテ人をカフトルから、アラムをキルから、連れ上ったではないか。
9:8 見よ。【神】である主の目が、罪深い王国に向けられている。わたしはこれを地の面から根絶やしにする。しかし、ヤコブの家を根絶やしにすることはない。――【主】のことば――
9:9 見よ。わたしは命じて、すべての国々の間で、イスラエルの家をふるいにかける。ふるっても、小石は地に落ちないようにする。
9:10 わたしの民の中の罪人はみな、剣で死ぬ。彼らは『わざわいは私たちに近づかない。私たちまでは及ばない』と言っている。
9:11 その日、わたしは倒れているダビデの仮庵を起こす。その破れを繕い、その廃墟を起こし、昔の日のようにこれを建て直す。
9:12 これは、エドムの残りの者とわたしの名で呼ばれるすべての国々を、彼らが所有するためだ。――これを行う【主】のことば。
9:13 見よ、その時代が来る。――【主】のことば――そのとき、耕す者が刈る者に追いつき、ぶどうを踏む者が種蒔く者に追いつく。山々は甘いぶどう酒を滴らせ、すべての丘は溶けて流れる。
9:14 わたしは、わたしの民イスラエルを回復させる。彼らは荒れた町々を建て直して住み、ぶどう畑を作って、そのぶどう酒を飲み、果樹園を作って、その実を食べる。
9:15 わたしは、彼らを彼らの地に植える。彼らは、わたしが与えたその土地から、もう引き抜かれることはない。――あなたの神、【主】は言われる。」

Bible Reference 聖書の記述

神様は義なるお方なので、神の民が罪を犯せばさばかれます。それは「クシュ人」と一緒です。しかし、「全く根絶やしにはしない。」と約束してくださいます。そこに信仰の人々が残されるのです。それは後のイスラエルの復興の力となり、「ダビデの倒れている仮庵を起こ」しました。また、その信仰はイエス様を受け入れる新約の時代に完成した福音へと、昇華されてゆくのです。
私たちも同じです。主からの試練や懲らしめがありますが、信仰は主からのものなので残され、それが希望になって行きます。「根絶やしにはされない」残りの者となりましょう。そのような者は「その日」とある、主の終りの日にも安心なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

20日　金曜

コリントⅡ

1:1 神のみこころによるキリスト・イエスの使徒パウロと、兄弟テモテから、コリントにある神の教会、ならびにアカイア全土にいるすべての聖徒たちへ。
1:2 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。
1:3 私たちの主イエス・キリストの父である神、あわれみ深い父、あらゆる慰めに満ちた神がほめたたえられますように。
1:4 神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができます。
1:5 私たちにキリストの苦難があふれているように、キリストによって私たちの慰めもあふれているからです。
1:6 私たちが苦しみにあうとすれば、それはあなたがたの慰めと救いのためです。私たちが慰めを受けるとすれば、それもあなたがたの慰めのためです。その慰めは、私たちが受けているのと同じ苦難に耐え抜く力を、あなたがたに与えてくれます。
1:7 私たちがあなたがたについて抱いている望みは揺るぎません。なぜなら、あなたがたが私たちと苦しみをともにしているように、慰めもともにしていることを、私たちは知っているからです。

コリント教会はパウロが開拓したものですが、その後反対者の惑わしがあって、非常に混乱してしまいました。パウロはコリント教会のために手紙（第一の手紙）を書き、テモテを遣わしましたが、テモテは教会の回復ができずに失望して帰りました。
次にはパウロ自身が訪問しましたが、それでも反対者たちは混乱させることを止めませんでした。次にパウロは手紙（第一と第二の間の手紙）を書き、その後テトスをコリントに送り、様子を聞いたところ、「コリント教会の大半の人々はパウロの言う主のみこころを理解した」ということでした。しかし少数となった反対者はいっそう強情になったということで、教会の混乱が続いていました。そこで書いたのがこのコリント人への第二の手紙です。
パウロはまずあいさつから始めますが、それは人には祝福を神には賛美を宣言するものです。それはクリスチャンの生きる基本的な動機と言えるでしょう。
そしてパウロは人生の苦しみについて語り始めます。人々の心を正しく導こうとするなら、自分に都合の良いことばかりを願うような話題では、神のみこころには立てないと知ってたからでしょう。事実、コリント教会に混乱があったのは、各自が自己中心な思いで教会というものを捉えていたからです。本当に主の御旨に立とうとする者は、損をしたくないとは思わないものです。
教会の主流となる人々は「苦しみをともにし」そして「慰めをもともにしている」人々です。またそれは教会本来の信仰につながるのです。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

21日 土曜

コリントⅡ

1:8 兄弟たち。アジアで起こった私たちの苦難について、あなたがたに知らずにいてほしくありません。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、生きる望みさえ失うほどでした。
1:9 実際、私たちは死刑の宣告を受けた思いでした。それは、私たちが自分自身に頼らず、死者をよみがえらせてくださる神に頼る者となるためだったのです。
1:10 神は、それほど大きな死の危険から私たちを救い出してくださいました。これからも救い出してくださいます。私たちはこの神に希望を置いています。
1:11 あなたがたも祈りによって協力してくれれば、神は私たちを救い出してくださいます。そのようにして、多くの人たちの助けを通して私たちに与えられた恵みについて、多くの人たちが感謝をささげるようになるのです。
1:12 私たちが誇りとすること、私たちの良心が証ししていることは、私たちがこの世において、特にあなたがたに対して、神から来る純真さと誠実さをもって、肉的な知恵によらず、神の恵みによって行動してきたということです。
1:13 14 私たちは、あなたがたが読んで理解できること以外は何も書いていません。あなたがたは、私たちについてすでにある程度理解しているのですから、私たちの主イエスの日には、あなたがたが私たちの誇りであるように、私たちもあなたがたの誇りであることを、完全に理解してくれるものと期待しています。
1:14 【前節に統合】

Bible Reference 聖書の記述

コリントの教会には、主のみこころから離れて自己流の考え方を押し通す人たちがいて、教会が分裂・分派などずいぶんと混乱していました。そのような人々は神が立てたパウロを指導者として認めようとしないで、様々に批判しました。
その中には、パウロの計画変更を無責任と批判する者もありました。それに対してパウロはここで弁明しています。「肉的な知恵によらず、神の恵みによって行動してきた」とあります。この信頼を表す表現から、パウロは反対者に対して語るというよりも、 むしろ一緒に教会を建て上げる人々の一致のために弁明していると思われます。教会を愛さない人々を変えようとするよりも、まず大切なことは教会を愛する人々の共有と一致です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

22日　日曜

コリントⅡ

1:15 この確信をもって、私はまずあなたがたのところを訪れて、あなたがたが恵みを二度得られるようにと計画しました。
1:16 すなわち、あなたがたのところを通ってマケドニアに赴き、そしてマケドニアから再びあなたがたのところに帰り、あなたがたに送られてユダヤに行きたいと思ったのです。
1:17 このように願った私は軽率だったのでしょうか。それとも、私が計画することは人間的な計画であって、そのため私には、「はい、はい」は同時に「いいえ、いいえ」になるのでしょうか。
1:18 神の真実にかけて言いますが、あなたがたに対する私たちのことばは、「はい」であると同時に「いいえ」である、というようなものではありません。
1:19 私たち、すなわち、私とシルワノとテモテが、あなたがたの間で宣べ伝えた神の子キリスト・イエスは、「はい」と同時に「いいえ」であるような方ではありません。この方においては「はい」だけがあるのです。
1:20 神の約束はことごとく、この方において「はい」となりました。それで私たちは、この方によって「アーメン」と言い、神に栄光を帰するのです。
1:21 私たちをあなたがたと一緒にキリストのうちに堅く保ち、私たちに油を注がれた方は神です。
1:22 神はまた、私たちに証印を押し、保証として御霊を私たちの心に与えてくださいました。
1:23 私は自分のいのちにかけ、神を証人にお呼びして言います。私がまだコリントへ行かないでいるのは、あなたがたへの思いやりからです。
1:24 私たちは、あなたがたの信仰を支配しようとする者ではなく、あなたがたの喜びのために協力して働く者です。あなたがたは信仰に堅く立っているのですから。

Bible Reference 聖書の記述

パウロは、コリントの人々が「恵みを二度受けられるようにしようと」周到に計画をたてましたが、その計画を変えざるを得ませんでした。それはコリントの人々への「思いやりのため」と23節に明かしています。反対者はそれをパウロへの批判の道具としたのです。

パウロはその動機が自分本位ではなく、主の思いに沿ったものであったので、臆することなく弁明することができました。反対者に誤解されるようなことがあっても、勝利は愛の動機にあるのです。

またコリントにはパウロの一面だけを見て、または一部の批判を聞いて惑わされた人もいたようです。私たちは常に祈り深く、主のみこころを聞き、主の「アーメン（しかり）」は何なのかを教えていただく者でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？